



館長だより

山形県産業科学館

令和7年11月29日(土)

発行 館長 加藤智一

鳩の「ひな」を見たことがありますか

鳩は平和の象徴。私がかつて通っていた中学校の校章も鳩でしたし、前々回の東京オリンピックでは白い鳩が放たれていた記憶があります。神社なんかにも沢山いましたしね。ところが、鳩の「ひな」を見たことがあるかと言われば、鳩の「ひな」を見たことがあるという方は、そんなにいないのではないかと思います。私也没有。その理由は、鳩の「ひな」は巣の中で短期間に急速に成長し、人目につかない場所で育てられるためです。巣立つ頃にはすでに成鳥に近い姿になっているため、街中で「ひな」として認識されることがほとんどありません。

そもそも、鳩は外敵（カラス、猫など）から守るために、マンションの高層ベランダの隅やエアコン室外機の裏など、視界に入りにくい場所に巣を作るため、発見されにくいうえに、孵化後の「ひな」は約1か月間、巣から出ずに過ごします。親鳥が交代で「ピジョンミルク」と呼ばれる栄養豊富な分泌物を与えることはありません。そればかりか鳩の「ひな」の成長スピードは非常に速く、25~40日ほどで巣立ちます。その頃にはすでに成鳥とほぼ同じ大きさになっているため、街で見かけても「子ども」とは気づきにくいのです。

日本にはドバト（カワラバト）、キジバト※をはじめ多様な鳩が生息しています。彼らは雑食性で、穀物、種子、昆虫、ミミズなどを食べますが、本来は植物の種子や穀物を中心に食べる鳥ですので、都市部では人が捨てたパン屑やスナック菓子などを採食するようになりました。また強い帰巣本能を持ち、一度巣を作ると同じ場所に戻る習性が強く、数羽から数十羽の群を形成し、時に100羽以上の大群になることがあります、このことが都市部での被害の原因にもなっています。そして特筆すべき点は彼らの繁殖能力です。一夫一妻制で、基本つがいで行動し、強い絆を持ち、野生で8~10年、飼育下では20年近く生きることもありますが、通常2個の卵を産み、親鳥が交代で抱卵します。繁殖期は春にピークを迎えますが、都市部では年中繁殖可能で、年間7~8回繁殖する例もあるそうです。そういう意味では、鳩は繁殖力が強いと言っても良いと思います。また、鳩の天敵としては、猛禽類（タカ・ワシ・フクロウ）、カラ

ス、ネコ、ヘビなどがあげられます、都市部に棲む猫やカラスは、比較的簡単に手に入る食べ物（人間の食べ残し等）を知っているため、リスクを冒してまで鳩を狩ることはしなくなったと言われています。そんな理由で、鳩の数は益々増えて行くわけです。加えて日本では「鳥獣保護管理法」により野生の鳩やその「ひな」を勝手に保護することは違法です。益々都会は鳩にとって居心地の良い場所となっていました。話題がそれてしましましたが、そういった理由で、かつては神社や公園など、鳩が多く集まる場所では「鳩のえさ」が売られていましたが、今はほとんど見かけなくなりました。何事もバランスが大事。増えすぎても少なすぎても支障が出るというお話をでした。



※「キジバト」はもともと山間部に多く生息していましたため、里山や森林で見られる鳩を「山鳩」と呼びます。羽の模様がキジに似ていることから「キジバト」という和名がつきました。「デーデーポッポー」「デデッポッポー」と表現される独特の声で、早朝によく鳴くのが特徴です。「ドバト（カワラバト）」は外来種で都市部に多く、群れで行動し人に慣れやすいのに対して、「山鳩（キジバト）」は在来種で、より警戒心が強く、つがいで行動することが多いのも特徴です。